

平成27年度奈良県がん予防対策推進委員会（第2回受診率向上部会）議事要旨

日時：平成28年3月3日（木） 午後2時～4時

場所：かしはら万葉ホール 5階 特別会議室

出席者：

（委員）今田順子、上中久美子、浦嶋偉晃、大石元（委員長）、堀川巴清、森高香代

概要

(1) がんの現状について

- 平成26年度がんの現状
- がんの5年相対生存率
- 平成26年度がんの年齢調整死亡率

<意見交換>

委員：がんの5年相対生存率で、肺がんは他のがんより低いのはなぜか。

委員：見つかったときには転移していることが多く、検診でわずかな変化を見逃さない、より小さいうちから発見することが重要だ。胸部レントゲンを毎年受けると、比較読影できるので、昨年と比べわずかな変化が見逃されない。毎年受けることが大事である。

また、レントゲンもデジタル化が進んでおり、画像処理で骨との重なりを消したり、見やすくできる。だんだん精度も上がるだろう。

CTはキャパシティが少ないので、市町村検診ではレントゲン検診が基本であるが、事業所や個別の検診ではCTを導入している所もある。

委員：奈良県の平成26年度がん部位別75歳未満年齢調整死亡率で、悪性リンパ腫が全国平均よりも高いが、奈良県内に血液内科を診療する医療機関が少ないことが影響しているかもしれない。

(2) 市町村がん検診受診率(平成26年度確定値)について

国の方針に合わせ、従来のがん検診受診率の年齢区分である40歳以上（子宮頸がんは20歳以上）に、40～69歳（子宮頸がんは20～69歳）（以下「40（20）～69歳」と70歳以上の区分を追加した。

- 平成26年度の確定値
 - ・市町村の受診率の状況
 - ・市町村順位
- 平成25年度との比較
 - ・県の平均
 - ・受診率に変動のあった市町村及びその理由

<意見交換>

委員：確定値を見て、これからどういう取り組みをしていけばよいか、県から意見はあるか。

事務局：モデル事業により、川西町では平成26年度の大腸がん検診の受診勧奨、再勧奨を行ったことで、大腸がんの受診率が大幅に増えた。平成28年度はモデルという形でなく、全ての市町村に受診勧奨、未受診者の再勧奨に取り組んでいただくため、補助制度を創設することとした。

委員：御所市は、基金により60歳代のがん検診を無料化して受診率が上がったが、無料であることも受診対象者へ周知されていなければ受診率向上にはつながらない。広報も重要である。

(3)平成27年度がん予防対策の取組について

がん検診推進事業ならびに健康寿命を延長する取組推進モデル事業について事務局より報告。

●がん検診推進事業

- ・奈良県がん予防対策推進委員会
- ・がん検診従事者研修会
- ・「がん検診を受けよう！」奈良県民会議
- ・奈良県がん検診受診促進企業連携事業
- ・がん予防推進員養成事業

●健康寿命を延長する取組推進モデル事業（がん検診受診率向上対策分野）

- ・平成26年度からの継続モデル市町（天理市、五條市、川西町、王寺町）
- ・新モデル市町（桜井市、御所市、葛城市、広陵町、下市町）

●平成27年度がん教育総合支援事業

- ・がん教育推進会議の開催
- ・教材作成ワーキングの開催
- ・研修会の開催
- ・講演会及び実践報告会の実施
- ・モデル校（高等学校）による授業実施

●がん教育のモデル校による授業の事前・事後のアンケート結果について報告。

<意見交換>

委員：今回の県民会議は商業施設で行ったが、買い物客などたまたま居合わせた人に、がん検診への関心を掘り起こせたと思う。

委員：桜井市は集団検診を行っているので、検診の日程や場所など住民の希望を集約でき、このように受診者が大幅に増えた。これは集団検診の良い例であり、個別検診でもどのように工夫したらよいか考えなければならない。

委員：私の職場では、がん検診の受診率がほぼ100%近いが、検診日程を3週間と長く設定している

ことが効を奏している。

委員：下市町では、今までがん検診の案内を回覧や広報で行っていたが、個別勧奨をした結果、初回受診者が増えた。「自分に」案内が来たので受診したという意見が多かった。今後は、町内の医師からも受診勧奨をしてもらいたいと思っている。

委員：下市町は独自のケーブルテレビ番組を持っているので、そちらで広報してみるのもいい。他の自治体で持っているところは、広報してみてもどうだろうか。

委員：モデル事業を実施していない自治体も、受診率向上のための方策を考えている。今回の中間報告会の内容などを周知して欲しい。

(4)平成28年度がん予防対策事業について(予算案)

●平成27年度がん教育総合支援事業

- ・がん教育推進会議の開催
- ・教材作成ワーキングの開催
- ・研修会の開催
- ・講演会及び実践報告会の実施
- ・モデル校（高等学校）による授業実施

●がん教育のモデル校による授業の事前・事後のアンケート結果について報告。

＜意見交換＞

委員：がんの教育の講義はだれがしているのか？

事務局：保健体育の先生が講義をしています。

委員：がんのサバイバーが講義するのも効果的だと思う。

委員：がんを扱っている医師が講義するのも効果的だと思う。

事務局：奈良県では講師のリストを作って、学校のプログラムに併せて派遣していく予定である。